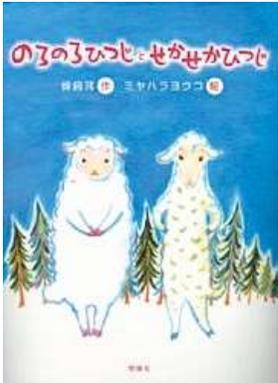




きょうかしょ で さくしゃ ほか さくひん しょうかい よ
教科書に出てくる作者の他の作品の紹介です！ぜひ読んでみてください♪

のろのろひつじとせかせかひつじ



はちかい みみ さく
蜂飼 耳 / 作
いつものんびりしているけれども繊細で細かいところまで見ている「のろのろひつじ」と、何をするにもせかせかしておおざっぱ大雑把、チャキチャキしている「せかせかひつじ」2匹の友達ひつじの日常のお話。

まんげつの夜、どかんねこのあしがいっほん



くつき しょう さく
朽木 祥 / 作
ひとりぼっちでさみしかったノネコは、おいしい坊。食べても食べてもお腹がいっぱいにならないような気がしていました。そして、いつの間にか狸みたいに大きくなってしまったのですが、それは、なんとも人間のようです。

月の輪グマ



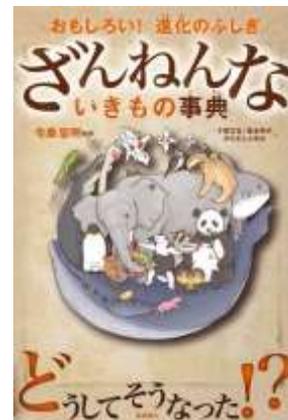
むく はとじゅう さく
椋 鳩十 / 作
子グマをつかまえようとした私たちは、はは母グマのおそろしいほえごえをきいた。子グマをたすけるために、母グマは、滝のてっぺんから滝つぼめがけてとびこんだ。いくら強いクマでも、あんな高いところから、とびこんだのでは…。

うきわねこ



はちかい みみ さく
蜂飼 耳 / 作
こねこの名前はえびお。えびおの誕生日におじいちゃんから送られてきたのは「うきわ」でした。手紙には「次の満月の夜を楽しみにしててください」と書いてあり、えびおはその言葉を胸に、ひとり心待ちにするのです。

ざんねないきもの事典



いまいずみ ただあき かんしゅう
今泉 忠明 / 監修
「ざんねん」とは、生き物たちの『進化のあかし』生き物は進化してきたからこそ、すごい部分も、ざんねんに思える部分も、あわせもっています。キリンやゾウ、カバなどいろんないきものざんねんが詰まった一冊です。

ぶな森のキッキ



いむら あしこ さく
今村 葦子 / 作
大あらしのつぎの日からすっかり無口になってしまったキッキ。仲間のリスが話しかけても、ぷっとふくれたようにだまりこんでいました。みんなが心配して声をかけても、だまりこんだまま木の根元にすわって動かさずじまつた。

きみの友だち



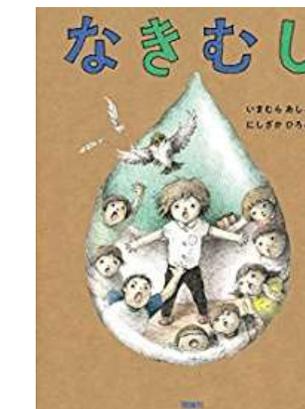
しげまつきよし さく
重松清 / 作
足の不自由な恵美ちゃんと病気がちな由香ちゃんは、事件がきっかけでクラスのだれとも付き合わなくなった。学校の人気者、ブンちゃんは、転校生モトくんのおもしろい。友だちの本物の意味をさがす本。

かたあしの母すずめ



むく はとじゅう さく
椋 鳩十 / 作
へび たまご と す
蛇に卵を盗られたり巣を焼かれたり…。何度もかなしみがおとずれようと、ぜつぼうせずにはすずめは前をむいて、ただ見まもるしかない私をおどろかせる。ひなを必死にまもる、母親のすずめの、強くやさしいすがたをえがいた話。

なきむし



いむら あしこ さく
今村 葦子 / 作
ゆうき
勇気くんが「なきむし」というあだ名をもらったのは、転校してきた日のことでした。それは、その日に派手に泣いたからでした。教室にスズメがまよいこみ、おいかけまわしているみんなに、「にがしてやって!」と泣き出したのです。